

令和4年度 学校評価書 (計画段階(実施段階))

福岡県立若松高等学校(定時制課程)

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	「楽しい定時制」をモットーに、きめ細かな指導を通して、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の向上を図り、自律心を持ち、素直で思いやりのある心豊かな生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
本校での生活で、より多くの生徒が基礎学力の定着を図り、生活習慣を整えながら自信を深めつつある。進路保障にもより力を入れたい。	生徒の実態に応じた、主体的・対話的で深い学びを育む教育活動を行う。	ICTを使った授業改善を図る。体験的行事の実施。総探と教科の横断的な連携を図る。継続的なスマートフォン指導を行う。全教科において自他を尊重した自己表現トレーニングを行う。		
	生徒の基本的な生活習慣を確立させる。	門立ち指導週間、生活アンケート、清掃指導を実施する。食や健康に関する講義、指導、行事を実施する。		
	思いやりと豊かな心を育成する。	教職員自ら人権感覚を磨くとともに、人権・同和特設授業を実施する。		
	各種専門機関と連携した取組を推進し、生徒のキャリア教育の充実を図る。	進路学習、個人面談週間を実施する。		
	学校行事を通して、地域に開かれた学校づくりを促進する。	地域行事への参加を含むボランティア活動を実施する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
生徒指導	仲間づくりを通して、楽しいクラス、楽しい学校づくりを目指す。	生徒会活動を活性化させ、生徒主体の学校行事を積極的に推進する。	A	生徒全体で行う学校行事の充実を図り、積極的参加を目指す。また高い人権意識を持ち心豊かな人材づくりを目指す。
	基本的な生活習慣の確立を図り、いじめの撲滅に取り組む。	門立ち指導週間を設け、挨拶の励行と時間厳守を徹底させる。	A	
		校舎内の美化意識の高揚及び喫煙防止に関する指導を委員会活動と連携して実施する。	B	
		生活アンケートやいじめアンケートを実施し、いじめの未然防止「早期発見」「早期対応」に努める。	A	
中途退学者の減少に努める。	食や健康に関する講義、指導、行事を学期ごとに実施する。	食や健康に関する講義、指導、行事を学期ごとに実施する。	B	
		生徒情報交換会を実施し、情報の共有と、家庭及びSCと連携した取組を強化し、面談や個別指導の充実により中途退学者の減少を図る。	B	
		授業アンケートを用いて生徒の実態を把握し、基礎学力定着学習を計画的に実施する。	A	
学習指導	基礎学力を定着させる。	スマートフォンの適切な使い方を指導し、授業の効率化を図る。	B	自己表現の取り組みを教科をこえて共有することで、教員が連携して生徒の自己表現力を高めることができるようにする。また、進路実現の取り組みにも繋げる。
	学びに向かう意欲を引き出す。	ICTを効果的に使った授業を、各教科月に少なくとも1回おこなう。	A	
	読書習慣を身に付けさせる。	体験的な行事を学期に2回以上行い、総探や教科との横断的な連携を図る。	A	
		読書推進委員会を中心に、図書の整理を行い、10分間読書を毎日継続させる。	B	
研究・研修	人権・同和特設授業を充実させる。	人権担当職員と協力し、年3回、特設授業ごとに事前の学習会を開催する。また、外部の研修会に参加した職員の研修報告会を開き、情報を共有する場を設ける。	A	様々な視点からの授業を実施することができた。次年度も、新しい情報を取り入れながら、現状に見合ったテーマを取り扱えるよう、情報共有を行う。
	校務支援システムの効果的な活用法を身に付ける。	校務支援システムに関する研修会を行い、実践を通して教員のスキルの上と定着を図る。	A	
進路指導	発達段階に応じたキャリア教育を行う。	ハローワーク等の専門機関と連携を図り、発達段階に応じた勤労観・職業観の育成と、自己実現や自己の確立、他者や社会との関わりを学ばせ、キャリア発達を支援する。	B	関係機関との連携をさらに深めながら、自身の生き方や在り方を考えさせる。
	進路選択への積極性を醸成する。	進路学習や個人面談の充実を図るとともに、保護者との協力関係を築き、主体的に進路を切り開く能力を育成する。	A	
保健指導	健康教育相談活動の充実を図る。	日頃の生徒状況を教員間で綿密に情報共有すると共に、校内の教育相談体制(SC・SSW・学校医等の専門機関)を活用し、多様な生徒状況に応じた細かな保健指導の充実を図る。	A	SCの活用は校内で浸透しているが、生徒の抱える課題は、家庭環境も含め多様化している。今後も、SCを始め保健福祉等の専門機関との連携を図り、生徒個々の抱える特性に寄り添い教育相談活動の充実を図りたい。
	健康管理能力を高める。	研修会への参加を促進し、保健委員会の活動を活性化させる。健康診断や保健指導を通して、健康に対する意識の向上を図る。	B	
給食指導	栄養バランスのとれた、美味しく楽しい豊かな給食の実施。	毎月の給食委員会で美味しい給食を提供できるように、業者と計画的に協議を行う。食事のマナーやルール、好き嫌いなど食習慣に対する指導を継続して行う。	A	食育講座を通して、規則正しい生活習慣や、そのための食事の摂り方等についての更なる食育を展開を図る。
	衛生的で安全・安心な給食の実施を図る。	安心・安全な給食の提供に向け、検査や日常の衛生管理及び、調理員や学校薬剤師等との協議・連携を図り、衛生管理の強化徹底に努める。	A	

学校関係者評価	
評価(総合)	評価(総合)
A	今後ますます重要性の増す課題解決能力を育むためには、様々な課題の発見をはじめ、連携等による解決策の検討・実践・体験等が欠かせないと考えます。授業のみならず、学校行事や日々の活動など学校生活全体を通して、生徒の力を育もうという姿勢・実践に感服します。 ・コロナ感染については先生方の指導が行き届いているため、生徒も柔軟に対応しており、信頼関係がしっかりと構築されていると思います。 ・学校運営方針どおり、「楽しい定時制」をモットーとしたきめ細かい指導が実践されていると思います。今後どうぞ宜しくお願い致します。
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・例えば、善行のあった生徒については、全校生徒の前で紹介するなどして、他の生徒に刺激を与え、自省を促すことも大切であると考えます。 ・従来通りにはいかない生活の中でも、生徒のいきいきとした姿や元気な声での挨拶を聞き、指導が行き届いていると感じました。 ・コロナ禍、物価高騰により家庭の抱える課題が深刻化していると耳にします。今後も一人ひとりに寄り添った教育相談をお願いします。
B	・地元企業から、キャリア教育の一環として次年度夏までの間に、工場見学などを盛り込んだバスツアーを提供したいとの意向も上がっています。「若高でしか学ぶことのできない独自色」をだすことに貢献できるよう、準備を進めています。 ・今年度の1年生から教育課程が変わり、指導と評価の一体化が求められている中で、先生方には大変なご苦労があったと思います。効率化できる点とそうでない点を分け、効率化によって空いた時間を有効活用していただけたらと思います。
A	・図書館の利用率の増加に向けて、改めて読書の楽しさや素晴らしさを教えたり、居心地の良い読書環境の確保に取り組まれると良いと思います。 ・新型コロナウイルス感染症も以前のような勢いはなくなりつつあるので、PTA研修旅行を含め、様々な研修が充実するようになると保護者や地域としても嬉しく思います。
A	・地元企業の工場見学ツアーなどの実施が次年度以降されています。企業との協議により、活用していただけたら幸いです。 ・主体的に進路を選択できる能力を身に付けていくことは、今の時代、特に重要なことです。若松が様々な企業の団体、大学、行政との連携により、そのお手伝いのできる「まち」になれるよう、努めていきたいと考えています。その手始めに、地元の企業見学ツアー等に生徒さんたちが参加していただけるよう、次年度に向けて準備を進めています。
A	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校閉鎖等の措置は、やむを得ないと思われまます。 ・コロナ禍、物価高騰により家庭の抱える課題が深刻化していると耳にします。今後も一人ひとりに寄り添った教育相談をお願いします。 ・学校を訪れる機会が多いですが、消毒や検温をする場所が設置されており、感染防止対策が行き届いていると思います。
A	・給食委員会が衛生管理に対して職員一同を組織立てて管理をおこなう、適宜必要な確認が行われています。 ・給食委員会が業者と密接な連携を取り、生徒たちが食堂利用のマナーをしっかりと守り、調理員の方々の良好なコミュニケーションを図りながら食育活動が実践されていると思います。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・より多様化する生徒を取りまく環境の変化に対応できるよう、職員一同で生徒と目線を合わせ毎日の生活指導を行う。
- ・全校生徒が参加する学校行事の充実をはかり、生徒の学校満足度を高めることで中途退学防止に努める。
- ・生徒情報交換会の回数を増やし、全職員がそれぞれの生徒の特性や状況に沿った丁寧な指導を行うことのできる体制を整える。
- ・若松高校定時制課程の教育環境のすばらしさを地域の中学生たちにも広く知ってもらうように広報活動を行う。

評価項目以外のものに関する意見

・コロナも落ち着きつつあるので、次年度は子供たちの活動をより身近で見られるよう、様々な行事の有観客での復活を期待します。